

農産 F A X 情報 第 6 号

令和 8 年 8 月 1 日

ゆとりみらい 21 推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 秋まき小麦

(1) 緑肥栽培

○近年、エンバク野生種に*いもち病*の発生が見られており、秋まき小麦の後作緑肥では 8 月上旬は種で発病リスクが高くなります。いもち病対策には、8 月中旬は種で発病軽減の可能性があります。発病が確認された段階で深めにすき込みましょう。

2 ばれいしょ

(1) 疫病防除

○茎葉に効果があっても塊茎腐敗には効果がない薬剤があるため、今後の薬剤の選択に注意しましょう。

(2) 軟腐病防除

○高温多湿 (25～30℃) な条件が続く場合は注意が必要です。引き続き防除を実施しましょう。

3 てんさい

(1) 褐斑病防除

○本年は 7 月中旬に初発が確認されております。引き続き予防防除に努めましょう。

○高温多湿条件で発生が多くなります。

(2) シロオビノメイガ、シロイチモジヨトウ防除

○発生状況に留意し、早期防除に努めましょう。

4 小豆

(1) 灰色かび病防除

○低温多湿で発生が多くなるため、気象経過に注意します。防除は開花始めから 7～10 日後、その後 10 日毎に計 3 回防除を行いましょう。また、耐性菌が確認されているものがあるため、連用は避けましょう。

(2) さび病防除

○ほ場観察を行い、発生を確認次第防除を行いましょう。

○短期輪作ほ場や、過去に発生があったほ場は特に注意しましょう。

(3) アズキノメイガ、マメノメイガ防除

○成虫の飛来を確認したら、ただちにノメイガ類に登録のある農薬を用いて防除を行いましょう(表1)。

表1 ノメイガ類に登録がある薬剤例

薬剤名	系統名	希釈倍率(倍)	使用回数	使用時期	RAC番号
プレバソフロアブル	ジアミド	4,000	2	7日前まで	28
スミチオン乳剤	有機リン	1,000	4	21日前まで	1B

5 大豆

(1) 菌核病防除

○多くのほ場で開花期を迎えています。

○開花期以降の多湿で発生が多くなるため、開花始から7～10日後、その後10日毎に計3回防除を行いましょう。

(2) ベと病防除

○初発を確認したら、防除を行いましょう(表2)。

表2 ベと病に登録がある薬剤例

薬剤名	系統名	希釈倍率(倍)	使用回数	使用時期	RAC番号
プロポーズ顆粒水和剤	CAA・クロロトリル	1,000	2	21日前まで	40, M5
レーバスフロアブル	CAA	1,500	3	7日前まで	40

(3) マメシンクイガ防除

○成虫飛来を確認したら、ただちに登録のある農薬を用いて防除を行いましょう(表3)。

表3 マメシンクイガに登録がある薬剤例

薬剤名	系統名	希釈倍率(倍)	使用回数	使用時期	RAC番号
プレバソフロアブル	ジアミド	4,000	2	7日前まで	28
スミチオン乳剤	有機リン	1,000	4	21日前まで	1B

熱中症に注意。こまめな休憩・水分補給

機械の点検や調整は、必ずエンジンを停止